



大鳥大社と鳳本通商店街(堺市西区)

# 熊野古道

くらくら記

6

JR鳳駅(堺市西区)  
で下車。和泉国の一の宮となつてゐる大鳥大社を訪ねた。

参道の両脇は赤紫と白のツツジが満開。背奥に鎮座する大鳥造の本殿は長い歴史が醸し出す威厳に満ち、参詣

後に立つ楠の木々は新緑に萌えて「千種の森」にふさわしい境内だ。

鳥大社は大鳥連の祖神を祭つたのが始まりだが、日本武尊の白鳥飛来伝説から千種の森の社となり、参詣者も廣域化した。鳥居の傍らは大きな献燈2基が寄進されており「木綿商之仲」と刻まれてい

者は切れ目がない。大鳥大社は大鳥連の祖神を祭つたのが始まりだが、日本武尊の白鳥飛来伝説から千種の森の社となり、参詣者も廣域化した。鳥居の傍

た。

「平日12時~13時

みん

なで一緒に昼食会

てもOK、近隣店で出

前をとつてもOK」。

キャッチコピーから独

た。

居の熟年や高齢者に

とってうれしいコミ

ト。撮津国阿倍野に住ん

でいた安倍保名は、信

故郷の信太の森へ帰つ

ていく。童子丸と保名

が信太の森を訪ねる

と、社前に葛の葉が茂

った。

イーの空間にもなつて

いた。

看板に引きつけられ

いた。

次にJR北信太駅

(和泉市)から徒歩で、

信太妻の民話として伝

信太の森の「うらみ

神様、龍神の神様、肩

こりの神様、集金の神

様、目の神様など、身

近な願いを込めた石碑

や祠が多く寄進され

ていた。人の願いは今

も昔も変わらない。午

後5時の時報が鳴る

と、お稲荷さんに地元

の人々が集まり、合掌

する姿が見られた。大

阪市内など撮津国に残

った熊野街道はわずか

で、細い破線のようだ

が、泉州・和泉国に入

ると太い線でつながっ

ており、地域の動脈に

なつていることに救わ

れる思いがした。

雲仰ぐ千種の森の青

嵐

秦華

# 神社、商店街、地域に根付く

た。木綿産地だった泉州らしいスponサーだ。

大鳥大社から熊野街道は駅前の鳳本通商店街につながる。清潔な雰囲気に誘われて散策する、現代的なショッピング、レトロな店舗が並び、心地よいリズムを感じた。間もなく、ちぐさのもり「コミュニティサロン」の立てた。街道がコミュニテ

た。ユニティーと感じた。部屋の中で昼食後の勉強会を行っていたケアスタッフが「ここでいろいろ学ぶのがいいみたいですね。場所は向かいです。場所は向かいのクリニック提供でいいの数日後、白狐

た。その後、白狐は葛の葉という女性に化けて保名を見舞つた。「きめ細かな企画

っており、その茂みが夫とわが子を見て、一日、保名はこの森で狩人に追われた白狐を助けた。その時保名は手に傷を受けてしまつた。その後、白狐

童子丸は、後に日本随一の陰陽師・安倍晴明となり、冷泉天皇

など3帝に仕えた。晴明父子が住んだ地が阿倍野王子である。

この森は御命婦神白嵐秦華予定

(次回は5月30日掲載)

和泉国で街道は太く 絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華